

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①小中一貫教育推進ブロック授業研で全学級の授業公開を行うこと、授業づくりの視点を共有する。②「授業を見合う週間」と授業研究会を運動させ、持続可能な授業改善の方策を確立する。③新学習指導要領に基づいて、「指導と評価の一体化」を推進する。	①小中一貫教育推進授業参観を2回(中学校1回、小学校1回)行い、授業づくりの視点を確認し、9年間の連続性を共有した。②11月に授業を見合う月間として、様々な視点から授業改善の方策を立てた。③新学習指導要領に基づいて、指導と評価の一体化について教科で研修理解を深めた。	B
豊かな心	①生徒の主体性を伸ばすように引き続き、生徒会活動や学級活動を通じて、主体性を引き出し、協働する素晴らしさを体験させる。②道徳の授業研究を深め、心の葛藤や多様な価値観に触れることにより豊かな経験をさせる。	①特活や総合の時間と連携を取りながら、生徒会活動や学級活動を通じて、体験活動の充実を図った。②特別の教科道徳の授業研究や教材研究を深めるとともに、特活や総合の時間とも関連づけながら、計画的に道徳教育、人権教育を行った。	B
健やかな体	①体育祭や球技大会等の体育的行事を計画的に行うことにより、生徒の運動や体力づくりに対する関心を高めたい。②体力向上と生涯スポーツの視点から部活動のあり方を見直し、計画的に取り組む。	①6月に体育祭を実施した。コロナ禍で学校生活に制限がある中で子供たちの体力の低下は著しい。次年度も行事等を通じて運動や体力づくりに関心を高めたい。②部活動に関しても活動日や時間の制限があるが限られた中で計画的に進めている。	B
キャリア教育	・地域の方々の協力のもと、1年でまちの先生、2年で職場体験学習、3年で自分の今後の進路を考える進路学習を実施し、学年ごとに系統性をもった指導を行っていく。	新型コロナウイルス感染症流行の影響で2年生の職場体験学習が実施できなかった。1年生は3月にまちの先生(職業講話)を実施する予定で動いており、事前学習を通じて将来について考える活動を行っている。3年生は、進路学習を通じてキャリア形成の実践を学んでいる。今後は、職場体験学習の存廃について検討することが課題となっている。	B
いじめへの対応	・毎朝の情報交換連絡会で情報交換を行い、組織としていじめの早期発見、未然防止に取り組む。・配慮が必要な生徒の共有化を図り、組織として具体的な支援を行う。・生徒と教職員のコミュニケーション(あいさつ一対話)をより円滑にする。	・いじめ防止対策委員会ではいじめ解決キャンペーンの成果等を活用しながら予防策や支援策を広く協議することができた。・受容的、共感的な姿勢で傾聴ができるよう、研修の場などで共通理解を深めた。生徒との教育相談の場を学期に複数回設定し、日々の対話の場面を大切にすることができた。	A
人材育成・組織運営(働き方)	①傾聴を心掛け、教職員の思いや考えを最大限尊重しながら、良さを認めて「任せて褒めて伸ばす」ことを実践します。②毎朝の情報交換連絡会を更に機能化して、ミドルリーダーの主体性を引き出し、課題解決に向けて組織的に取り組むことを推進します。③目的と効率の視点を大切に、教育活動の質を担保した上で、更なる業務の精選及び効率化に努め、子どもと向き合える時間の確保を推進します。	①については、おおむね実践できている。さらに深めて個々の資質・能力の向上につなげたい。②については、十分に機能し、生徒の健全育成に大いに効果があった。③については、十分とは言えない状況である。来年度は、より適材適所の人事配置を行い、さらなる効率化を進めていく。	B
特別支援教育	①特別支援コーディネーター会議を機能的に行い、具体的な配慮を検討し実践する。②スクールカウンセラーに授業を参観してもらい、特別支援が必要な生徒を専門的見地から早期に発見する。③特別支援教室(study room)を更に生徒の実態に合わせて運営できるように工夫・改善を行う。	①生徒指導部会の後にコーディネーター会議を開催し、具体的な配慮を検討し共通理解を図った。②本年度はできなかったが、スクールカウンセラーに授業を参観してもらった機会をつくり、特別支援が必要な生徒を専門的見地から早期に発見につなげていきたい。③職員会議で毎朝、特別支援教室(study room)の利用状況を共通理解してもらった機会を得て、コーディネーターを中心に全教職員の協力のもと、生徒の実態に合わせて運営できるように工夫・改善をおこなった。	B
生徒の主体的な活動	①朝会の運営や生徒総会の企画・運営を生徒が更に主体的に行えるように指導していく。②学年行事に生徒の主体的活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力を育む。③グループワークなどを取り入れ、協働しながら問題解決を図れるように指導を継続していく。	①朝会では、生徒の発表の場を増やした。今後も継続する。あいさつ運動が再開できた。②朝会にて、学年行事について代表者の発表の場を設け、たでの交流ができた。今後も継続する。③評議会では学校課題を上げ、問題解決に向けて話し合いを行い、動画を作成した。今後も継続して問題解決の場を提供し、発信する機会をつくっていく。	A
生徒指導	・教育相談を充実させ、生徒・保護者の思いに寄り添った支援を心がけ、いじめ等の未然防止に全教職員で取り組む。・生徒指導に対して、情報収集や教職員の連携を大切に、迅速な対応を行えるようにしていく。・生徒たちとの日頃からのコミュニケーションを重視し、より良い学校生活とは何かを考え、目指していく。	・日頃から生徒とのコミュニケーションを重視し、生徒に寄り添った指導、支援を行った。・研修会等で資料を活用し、教職員の中で共通理解を図った。・要配慮生徒について把握し、SOなどと連携をしながら適切な配慮について検討した。・毎朝のいじめ防止委員会は機能した。	A
地域連携	・令和4年度発足する学校運営協議会や学業地連総会等の機会を有効に活用し、地域とさらなる連携を図り、開かれた学校運営を推進していく。	・学校運営協議会からのご意見などを受け、教職員の地域に対する意識啓発を進める事ができた。・学業地連助成金を校内の緑化推進に活用し、明るい学校づくりを進めた。	B
ブロック内評価後の気付き	・コロナ禍でも、生徒が自主的にアイデアを出して学校行事などに取り組み、学校が現状の中でできることを模索した。その成果として、保護者や生徒の学校への満足度が高く、アンケート結果に反映されていた。特に、「楽しく学校生活を送っている」「学校行事へ進んで参加している」の項目のポイントが高いことは成果だと考える。生徒理解やいじめへの対応など「生徒が安心して通える学校づくり」を大切にしながら学校運営を行ってきた。その成果が「いじめや差別をすることなく、人の気持ちを考え行動している」や「先生は生徒のことをよく理解しようとしている」の項目において高い結果につながったと考える。保護者アンケートより、「学校は、生徒の将来の進路希望をよく考え、適切に指導している」の項目が低くなっていることについて、学校の取組を保護者へ発信し切れていなかったからなのか、問題点を明確にして、次年度以降に臨んでいただければと思う。		
学校関係者評価	・コロナ禍により様々な制約がある中で、学校が生徒の安全と安心を心掛けながら、教育活動を丁寧に行っている。課題であった「いじめ、暴力行為防止」の取組も組織的に丁寧に行われ、成果も上がっている。今後も生徒一人ひとりが安心して学校生活を過ごせるように努力を続けてほしい。・教職員、生徒、保護者のアンケート結果を踏まえると学校がつけた評価報告書の総括が控えめすぎる。アンケートの設定、集約の仕方をさらに工夫し、実態により則した数値化を図り、それを根拠に総括を行うべきである。謙虚にならざるべきようにしてほしい。		
中期取組目標振り返り	教職員は「傾聴」「受容と共感」を大切にした生徒理解に努め、生徒の良いところを「認めて褒める」ことを実践し、自己決定を促したり、指導が必要な場面でも説得ではなく、納得を引き出す指導、支援に努めたりしている。また「率先垂範」「凡事徹底」を常とし、生徒にとって生き生きとした良いモデルになるようにも努めている。生徒には「将来、社会に貢献する一員として、自分らしさを発揮し、生きがいと誇りをもって、幸せに生きる人」になっってほしいと願い「気づき考える」「自分で決める」「進んで行動する」のために「失敗を恐れず、挑戦し続ける」ことを意識するよう促した。より一層進めていく必要性を感じている。		

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①小中一貫教育推進ブロック授業研で全教科の授業公開を行うこと、ICT教育の充実を図ると共に授業づくりの視点を共有する。②「授業を見合う週間」と授業研究会を運動させ、持続可能な授業改善の方策を確立する。③新学習指導要領に基づいて、「指導と評価の一体化」を推進する。		
豊かな心	①生徒の主体性を伸ばしていくために、生徒会活動や学級活動を活発に行い、主体性を引き出し、協働する素晴らしさを多く体験させる。②道徳の授業研究を深め、心の葛藤や多様な価値観に触れることにより豊かな経験をさせる。		
健やかな体	①体育祭や球技大会等の体育的行事を計画的に行うことにより、生徒の運動や体力づくりに対する関心を高めたい。②新体力テストの結果等を活用し、自己の体力を分析することや、体力向上と生涯スポーツの視点をもちながら部活動のあり方を見直し、計画的に取り組む。		
キャリア教育	・1年で「まちの先生」、2年で「SDGs」や課題解決学習、を通して自分自身のより良い生き方や考え方を学び、3年で自分の今後の進路を考える進路学習を実施し、自己決定を目指した進路実現に向けての実践力を発揮できるよう指導していく。		
いじめへの対応	・毎朝の情報交換連絡会で情報交換を行い、組織としていじめの早期発見、未然防止に取り組む。・配慮が必要な生徒の共有化を図り、組織として具体的な支援を行う。・年度初め、長期休業後に教育相談の時間を設け、生徒の変化や困り感等に寄り添えるようにする。		
人材育成・組織運営(働き方)	①傾聴を心掛け、教職員の思いや考えを最大限尊重しながら、良さを認めて「任せて褒めて伸ばす」ことを実践します。②情報交換連絡会等を更に機能化して、ミドルリーダーの主体性を引き出し、課題解決に向けて組織的に取り組むことを推進します。③目的と効率の視点を大切に、教育活動の質を担保した上で、更なる業務の精選及び効率化に努め、子どもと向き合える時間の確保を推進します。		
特別支援教育	①特別支援コーディネーター会議を生徒指導指導部全体会の後に必ず開催し、課題を具体的に検討し配慮事項を実践していく。②特別支援教室(study room)を利用する生徒の個別支援計画を学級担任に作成してもらい、特別支援を必要とする生徒の実態を全職員で共有していく。③特別支援教室(study room)を更に生徒の実態に合わせて運営できるように工夫・改善を行っていく。		
生徒の主体的な活動	①生徒会活動における課題の発見で留まらず、改善・向上を目指すために自発的に取り組むよう指導していく。②生徒一人一人が活躍できる場や機会を意図的に、計画的に設定する。③活動後には、自分の活動の成果や互いの活動の感想を述べたり書いたりする振り返りの場を積極的に設定する。		
生徒指導	・教育相談を充実させ、生徒・保護者の思いに寄り添った支援を心がけ、いじめ等の未然防止に全教職員で取り組む。・生徒指導に対して、情報収集や教職員の連携を大切に、迅速な対応を行えるようにしていく。・生徒たちとの日頃からのコミュニケーションを重視し、より良い学校生活とは何かを考え、目指していく。		
地域連携	・令和4年度発足した学校運営協議会や学業地連総会等の機会を有効に活用し、地域とさらなる連携を図り、開かれた学校運営を推進していく。		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
キャリア教育	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	c6		
特別支援教育	c7		
生徒の主体的な活動	c8		
生徒指導	c9		
地域連携	c10		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			